

将来の就活にもつながる...立高体験全力で！

朝日新聞社 就活コーディネーター **木之本 敬介氏 (高校32期)**

1986年 一浪一留して早稲田大学政治経済学部経済学科卒、朝日新聞社入社
1993年 支局勤務などを経て政治部記者
2007年 生活部デスクなどを経て採用担当部長
2012年 教育総合センター長補佐
2013年 就職情報サイト「あさがくナビ」(朝日学情ナビ)編集長
2017年 就活コーディネーター兼務、朝日新聞教育面でコラム「知る就活」を担当
※著書に「最強の業界・企業研究ナビ2017」(朝日新聞出版)



■「歴史の目撃者」になりたい！

「いま歴史が動いているんだ。歴史の目撃者になりたい！」

立高3年生の年末。自宅のコタツで見ていたニュースがソ連軍がアフガニスタンに侵攻したと伝えました。冷戦時代でもデタントと呼ばれる雪解けの時期でしたが、その日を境に世界情勢は一気に緊迫、西側諸国のモスクワ五輪ボイコットにもつながりました。キューバ危機もベトナム戦争も教科書で学んだ過去の一コマでしたが、いま歴史がつけられていることを実感して大興奮。新聞記者になって現場に行きたいと思うようになりました。

新聞記者になって事件事故、甲子園、永田町での政治取材などを経験。1993年の歴史的な政権交代など「歴史の目撃者」になるとともに、あまたの出来事、人の思いや人生を伝えてきました。その後の採用担当の経験を生かして、今は就活生向けにニュースをやさしく解説したり、大学生にエントリーシートや面接の指導をしたり、大学で講演したりしています。



退陣表明した宮沢首相を追う
筆者＝後方(1993年7月)



「立高創立80周年誌」の表紙を飾った筆者が描いた旧校舎

■人生の基礎は立高で

立高時代は、バレー部の活動と体育祭のキャンパスづくりに熱中しました。清明寮や神城山荘、バレー部で鍛えた体力と精神力、個性豊かな友人たち……、人間としての基本はすべてこの時代に培われたように思います。

楽しい思い出ばかりですが、成績はひどいものでした。数Iからいきなり大学レベルの問題を解かせる小山恒雄先生の授業についていけず小テストで赤点を連発。お陰で理系進学への道は断たれ、私立文系を目指すしかなくなりました。結果的に悪い選択ではなかったのですが、今も先生には感謝しています(笑)。でも、数学ができないと進路は制約されます。現役の諸君にはしっかり取り組んでほしいと思います。

■今打ち込んでいることが将来を決める

今は就職情報サイト「あさがくナビ」の編集長として、「就活ニューズペーパーby朝日新聞」というサイトで、就活生に役立つ情報を連日発信しています。人気コーナー「人事のホンネ」では記者経験を生かして有名企業の採用担当者に直撃インタビュー。これまで約70社に根掘り葉掘り取材してきました。



NHKの就活特番に出演
＝右端(3月4日)



大学やイベントで講演



朝日新聞で連載中の就活コラム



就活ニューズペーパーのQRコード

最後にクイズ。学生の「未来の夢」と「過去の経験」、企業が面接で重視するのはどちらだと思いますか？企業が求めるのは将来活躍できる人です。ただ、どんなに素晴らしい夢を語っても未来はわかりませんよね。だから、企業は過去の経験から未来の可能性を見極めようとします。一番重視されるのは大学時代ですが、高校時代を聞く会社もあります。どんな体験をして、壁をどう乗り越え、どう成長したのか。部活、委員会、立高祭、体育祭、合唱祭、演コン、勉強……何でもOK。今みなさんが熱中していること、日々悩みながら取り組んでいる体験が結果的に将来を切り開きます。立高生活を満喫してください！